

こども委員会のよりみちコラム

今回の担当：村松海輝

書いた日：2023年1月1日

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。よりみちコラム第6回目を担当させていただきます。岩手県立療育センターの村松です。私の住む地域は雪が多く、毎晩雪かきに追われる日々を過ごしておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

私は岩手県内の児童発達支援センターや障害児通園支援における作業療法士の関わりと発達領域のおすすめの本についてお伝えしたいと思います。

現在、県内には150か所を超える児童発達支援センターや障害児通園支援を行っている事業所があります。

また、近年では作業療法士が関わるのが急増し、私の知り得る限りでは約20~30事業所で作業療法士の先生方が関わっています。そのため、私も含めてスキルアップが必要であり、セラピストの質の担保が課題となっています。

さて、発達領域のおすすめの本です。1冊目は協同医書出版社の「感覚統合Q&A—子どもの理解の援助のために」です。2冊目はメディカルビュー社の「子どもの能力から考える発達障害領域の作業療法士アプローチ」です。3冊目はメディカルビュー社の「発達OTが考える子どもセラピィの思考プロセス」です。私自身が臨床で疑問に思ったことやセラピィに対して不安になったときに何度も読み返している本です。これから発達領域に関わりたいと考えている先生方には一読していただくととても参考になると思います。

最後になりますが、養成校時代の恩師から「作業療法士ならば遊びのプロになりなさい」と教えていただきました。さらに、A.Jean.Ayresが「Therapy should be FUN」と述べているように子どもに関わる作業療法士として「あそび」を追求し、子どもたちのために日々精進したいと思います。また、子どもたちのより良い発達のためには職場や職種の垣根を越えた支援が必要であり、「よこならび」の関係で連携していきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

